

日本OECD共同研究

「エコシステムアプローチの展開」

2023年10月20日

日本OECD共同研究事務局

東京学芸大学教育インキュベーション推進機構

OECD日本共同研究プロジェクトリーダー

荻上健太郎

日本OECD共同研究（経緯と枠組み）

1. OECD東北スクール

- ルーツは東日本大震災の復興支援事業「OECD東北スクール(2012-2014)」
- 震災で被災した約100名の中高生が、様々な他者と協働しながら『2030年に向けた新しい学校教育』のモデルを日本から世界へ提案
- エージェンシーなどの概念の発端であり、現行学習指導要領や国際的な評価へ（ウクライナの教育復興でも注目）

2. 日本OECD共同研究

- 日本国内の学校等（困難校や困難を抱える児童生徒を支援する団体等も含む）と、異なる国々の学校間が校種を超えてつながる、**国際共創によるエコシステムアプローチ**
- 目的は、カリキュラムや生徒・教師エージェンシー、ウェルビーイングに係る**政策形成への貢献**
- **学校現場における実践研究や若手研究者との共同研究**などを実施・促進（東京学芸大学は事務局として、エコシステムを構成するマルチステークホルダーによる実践研究コミュニティの構築とその活動を促進）

泉大津市立小津中学校（大阪府）

「学校のコンパスづくりと共創プロジェクト」

- 生徒と先生発によるボトムアップ型学校改革：生徒主体によるビジョンメイキング（学校のコンパスづくり）へ
- 学校の自主性や生徒の主体性を生かしつつ、外部のステークホルダーとも連携したたカリキュラムデザイン・評価とその実施（例：「共創プロジェクト」の推進、スタートアップ企業とも連携したAI等も活用した英語学習）
- ポルトガルとの国際共創（ビッグアイデアから教科横断による合同授業づくり）



学習指導要領の主要概念との関連性：生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な活動の促進、教科横断的な学び、社会に開かれた教育課程の推進

東京都立立川学園（東京都）

「生徒と先生の挑戦で校種や国の壁を超える」

- 手話による詩の朗読を通じたイタリアとの国際共創（国の壁を超えた交流）への挑戦
- 手話による司会を通じた主体的な参画や、校種を超えた生徒同士の交流
- 生徒主体によるワークショップを企画する側への展開（社会との接点や相互作用性のあるカリキュラムへ）



学習指導要領の主要概念との関連性：生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な活動の促進、社会の形成への参画、社会に開かれた教育課程、学校相互間の連携・交流の推進

「プロジェクト∞無限大の各種活動から」

1. 新たな形の教員・生徒の学びの創造（夏のWS）

- ・生徒と先生・大人と一緒に「探究」や「評価」を考える機会
- ・海外事例の共有からの示唆（海外の模倣ではなく、新たな創造の契機に）
カナダの探究学習：ロケットの模型を5歳の子供が作る探究学習
エストニアの評価：学校の自律性を高める評価システム
→これらの事例を小中高の教員が聞き、質疑を通して自分たちの現場でどのように生かせるかを議論。



2. 教職志望学生チーム（FG2C※）

- ・校種の特性を踏まえた教師エージェンシーの育成
- ・カリキュラムと教員養成とのズレの解消も含めた将来の担い手との協働

※OECD Education 2030 Focus Group 2C（教師になりたい学生・大学生・大学院生のグループ）

3. 研究者コミュニティとの連携

- ・若手研究者の研究活動支援や活動環境整備
- ・プロジェクト参加校とのマッチングによる学校との共同研究の促進
- ・カリキュラム分析へのLLM（大規模言語モデル）の活用可能性（ビッグアイデアの抽出）

2023. 3. 19 Sun
17:00-19:30
オンライン (Zoom) 開催

若手研究者の眼

ユニークな視点から学び教育の価値を見つめよう若手研究者が集結し、日本国内で変じている多様な場での多様な学びをめぐり、これからのインクルーシブ教育の新しいカタチを参加者の皆さんと共に考えます。様々な学びの実践から学び合い、ウェルビーイング溢れる未来の教育のあり方を探求に出発しましょう！
加えて、若手研究者が参加している国際的な取り組みを共有するための「若手研究者×NPO×日本OECD共同研究プロジェクト」の取組みをご紹介します！

プログラム（予定）

- ・オープニング
- ・多様な場での多様な学び
 - ・病院での学び
 - ・海外のバックグラウンドを持つ子どもの学び
 - ・学校内での異年齢づくり実践から学び
 - ・学校休業舎を継続した学校からの学び
 - ・キフッド不登校支援からの学び
- ・対話セッション：智で未来のインクルーシブ教育のあり方を考える
- ・若手研究者×NPO・若手研究者の悩み

参加申込はコチラから

主催：日本OECD共同研究
公式ウェブサイト: <https://gakugei-aosbha.org/>
問合せ先: collective@gakugei.ac.jp (東京学芸大学内プロジェクト事務局)

今後に向けて

1. マルチステークホルダーによる社会に開かれた教育課程の推進

マルチステークホルダーによる学校、教育委員会、研究者、NPO・企業等とのコレクティブインパクトの促進とネットワークの拡大（社会に開かれた教育課程に係る実践の深化）

2. エコシステムアプローチによる学校のWell-beingの向上

学校におけるWell-beingの向上に向けた指導と評価の在り方の検討。特に、生徒の自己評価も含めた多面的で柔軟な評価・評定（学習指導要領と評価・評定）及びそのための教員・生徒を巻き込んだビジョンメイキングとそのためのプロセスの検討。

3. カリキュラムと教員養成・教員研修との一貫性確保

学習指導要領と教員養成・教員研修との一貫性を図るための取組の加速（本共同研究におけるFG2Cとの協働や、教員養成フラッグシップ大学としての養成・研修カリキュラムの研究開発実践との一体的取組並びにネットワーク活用・展開等）